

図書館からの風

㊱大阪市立大淀中学校図書館 2018・2・8

新刊の貸し出しが始まつたよ！ 2月7日貸し出し開始

新刊第一弾の貸し出しが始まりました。

ただし、第二弾の貸し出しが、**2月28日**からと迫っているので、第一弾の本は、**14日**から一部、第二弾の新刊と入れ替えてしまうので、早めに見に来てくださいね。放送で、ユニークな本を中心に紹介してきたので、今回は読み物をいくつか紹介します。

《新刊貸し出し（第一弾）の小説より》

『君の脾臓を食べたい』 住野よる

僕は偶然、クラスメートの咲良が、脾臓の病気のため、あまり長く生きられないことを知った。咲良が「生きているうちにしたいこと」をしようとするのに、付き合うことになってしまった僕。大切な時間を咲良がゆだねてくれたことにより、あまり人に心を開かなかつた僕の心に変化が。

『劇場』 又吉直樹

僕は、「演劇によって世のなかに影響を与えてやる。」と夢を抱いて東京にやってきた。出会った沙希とともに夢をかなえようとするが・・・。沙希を幸せにしきれなくて、「東京は、私には無理。」と言い残して沙希は去ってしまう。又吉は、『火花』より先にこの作品を書いていたと言われる。、切ない気分に包まれる作品。

『三日月』 森絵都

昭和36年、小学校の用務員をしていた大島は、子供の補習をしたのをきっかけに塾を開くことになる。日本の経済復興とともに塾は発展するが、大手に乗っ取られそうになったり、他から講師を引き抜かれたり、ネットでスキャンダルを流されそうになったり、危機が次々に襲い掛かり、スリリングな展開で飽きない。日本の教育事情の移り変わりも知ることができる。

『ツバキ文具店』 小川糸

代書屋（他人の代わりに手紙を書く商売）をしている私は、祖母からこの仕事を受け継いだ。祖母と交流があった人々は、そろってユニークで、なぞの紳士の「男爵」や金持ちそうな「バーバラ夫人」などが鎌倉の四季と共に色を添える。しかし、誰もが優しく、時もゆったり流れる。癒される。

